

『へちま』

三谷 智子

◆登場人物

- 長谷川 たまき（はせがわ たまき） ……長谷川家の長女
- 長谷川 みのり ……同 次女
- 長谷川 いずみ ……同 三女
- 田邊 圭佑（たなべ けいすけ） ……たまきの恋人 仕出し弁当屋の社長
- 中川 吉宏（なかがわ よしひろ） ……いずみの婚約者 大学講師
- 松嶋 元子（まつしま もとこ） ……いずみの母親
- 日野 義一朗（ひの ぎいちろう） ……長谷川家の隣人
- 飯塚 真澄（いづか ますみ） ……義一朗の姪

【一場】ある五月晴れの日 昼下がり

海からは少し距離のある住宅地。その一画に建つ長谷川家の居間。

居間の向こう側に縁側と小さな庭。縁側から庭へ降りられる様になっている。

居間の座卓の周りに座っている、喪服姿のたまき、みのり、いずみ、中川。

中川といずみは隣合わせで部屋の隅の方に。みのりはスマホをいじっている。

居間の中央、座卓に向かって座る派手な柄シャツの女、飯塚真澄が泣いている。

真澄 死にたいと思うこともありました

たまき そんな

真澄 だってあんまりじゃありませんか？ 私は夫に、愛人と遊ぶお金を渡してたんですよ。

それを思うともう悔しくて悔しくて。奥歯を噛み締めて噛み締めて、歯が欠けてし

まったんです！

みのり ええ、

たまき みのりっ

真澄 本当です。これ、右の奥から2番目、差し歯なんです（たまきに口を開けて見せる）

たまき ……そうなんですか

真澄 ええ。これでまた出費ですよ。耐えられないっ！

たまき でも、もうその、愛人の方は工場をお辞めになったんですよ？

真澄 ええ、辞めさせました

たまき じゃあ、ねえ

中川 ねえ、良かった良かった

真澄 良くありませんよ。退職金払ってくれて言われたんですよ！ その女に

いずみ マジで？

中川 いずみちゃんっ

たまき （中川に）え？

中川 いや、え、払ったんですか？

真澄 払いました。夫に払えと言われて。退職金規定に書いてあるからどうのこうのって。

でもきつとそんなんじゃないやありません。どうせあの女に言われて…殺してやりたい！

泣き伏す真澄。皆ティッシュを渡したり背中をさすったりと慰める。

が、みのりは関わらない。

真澄 すいません。皆さん大変な時に上がりこんで。つい愚痴を

たまき いえ、いいんですよ。法事はもう終わりでしたから

真澄 本当に申し訳ありません。あのこれ（名刺を出し）もし伯父を見かけたらご連絡いだけませんか？

たまき ええ、もちろん。すぐに連絡します

真澄 ありがとうございます。今までは警察から連絡があったんですけど

中川 警察？

真澄 ええ。迷子になった伯父を保護してらって。うちに引き取って二年目ぐらいからです。仕事を放って迎えに行きますでしょ？警察に、ちゃんと見てあげなさいって叱られるんです。謝って連れて帰って、ようやく職場に戻るじゃないですか？そしたら机にこんな。こんなに書類が。領収書やら請求書やら山の様に……例の、愛人だった事務員は辞めさせましたから手伝う人はいないし、もちろん主人だってやってくれません。

そして家に帰れば帰ったで、主人と母と伯父、子供二人の食事の用意。洗濯に風呂掃除。

母は寝たきりですから、仕事中也帰ってご飯を食べさせて、床ずれしない様に体勢を変えさせてマッサージして。気づいたら夜中の三時四時。そして六時起床です！

たまき まあ……

真澄 愚痴を言えば、お前の母親と伯父さんだから自分で何とかしろってそればかり。そしてあの女と……夫婦って一体何なんですか？何なんですか？ねえ！

中川 ……ねえ

真澄 こうして藤沢くんだりまで伯父を探しに来ている間だって

いずみ くだり

真澄 何してるか分かったもんじゃありませんよっ

たまき …早く見つかるといいですね。見かけたらすぐご連絡しますから

真澄 ありがとうございます。今日はお忙しい所、失礼致しました

たまき いえいえ

ようやく腰を上げる真澄。たまきも玄関へと立つが、縁側で立ち留まる真澄。

真澄 （庭を眺めつつ）ホント、全く同じなんですねえ

たまき え？

真澄 庭の位置も形も。お部屋の間取りも。私、伯父の、というか母の実家に来たの久しぶ

りで。こちらに来て初めて知りました

たまき 同じ不動産会社の建売らしいですよ。私も子供の頃、日野さんちに遊びに行つて、ああ同じだなんて。まあ日野さんは、ウチよりずっときれいにしてらっしゃいましたけど。悦子さん、あ、お母様、とつてもきれいな方だから

真澄 そんな…

たまき それに義一朗さん、ガーデンングがお好きでしょ？ 色んな花が咲いてて。あと夏になると庭一面にヘチマが。たくさん実が成ってました

真澄 …母が言うんです。伯父が二日も帰らなくて心配してたら『兄さん、庭いじりに帰ったのかもしれない。ちょうど、へちまを植える時期だから』って

たまき ああ…

真澄 (中川たちに) 私、そんなはずないって言ったんです。わざわざ電車乗り継いで？ 江ノ電まで乗って？ そんな事のために？ 一人で来るはずないって。でも『きつとそうだから。兄さんウチに居るから見て来てくれ』って涙を溜めて頼むんですよ母が

中川たちに話しかけながらまた居間に座っている真澄。うんざりするみのり。

真澄 (ため息) どうして結婚しといてくれなかったんですかね。結婚して子供でも作つといてくれたら、母も私も、ここまで苦しまずに済んだと思うんです。何でやもめ貰いちゃったかなあ…

みのりのスマホが鳴る。電話に出つつ縁側から別室へ去るみのり。

みのり お疲れ…うん、さつき終わった。そっちは？…神戸牛のステーキ？! ちよ、浮かれすぎ

真澄 やだ私また。本当に失礼しました

たまき いえ。何のお構いもできませんで。お母様にもよろしくお伝えください

たまき、真澄、玄関の方へ去る。足を崩す中川。痺れが切れている様子。
いずみはスマホを出してメールチェック。

いずみ ……何してんのかなあも

中川 (足をほぐしながら) どうするの？
いずみ え？

中川 一回嘘ついちゃったら、もう塗り重ねていくしかないんだからね
いずみ 分かってるって

中川 無理だよもう。音楽堂の職員だったなんて知らないし。仕事の話されても答えられないよ

いずみ すぐ辞めたって言えばいいじゃん

中川 すぐ辞めた人が何で七回忌に来るの

いずみ ……在籍中に

中川 在籍中に？

いずみ ……なみなみならない、恩を、受けたんでしょね

中川 いい加減過ぎるよ。いずみちゃんっ

たまきが小走りに戻って来る。素早く元の態勢に戻る中川といずみ。

たまき 中川さん、すいません

中川 いえいえ。お隣の方、見つかるといいですね

たまき ホントに…。あの、お弁当頼んでますから、良かったら一緒に

中川 あ、そんな、お気遣いなく。急に来てしまって申し訳ありません

たまき とんでもない。わざわざ東京からすいません。父とは長いお付き合いだったんですか？

中川 ……はあ。まあこちらが一方的にお世話になっていたというか

たまき ああ。いつ頃まででしたっけ？父が音楽堂に居たのって。すいません。自分の父親
なのに

中川 あのく僕もですね。ずっと居た訳じゃなくて、お父様がお辞めになる前に、その、転
職しまして

たまき そうでしたか。…音楽堂に居たときは、どういうお仕事なさってたんですか？

中川 ……え？

たまき お仕事

中川 あ、え、チケットをもぎったり、掃除したり。まあ雑用みたいなもんですかね

たまき そうですよ。若いうちはみんな。…それにしても叔母も一言いって来てくれれば

中川 あ、ヤスエさんは別に

たまき 芳江です

中川 あ、ヨシエさんだ。すいません。僕がこちらにもご連絡すべきでした

たまき いえいえ。…叔母とはやっぱり音楽堂に居た時に？

中川 ……そーだったかなあ。何だっけ。…あ、クラシックのコンサートを、聞きにいらっ
しゃって

たまき (笑)へえー珍しい。クラシックあんまり聴かないのに

中川 そっかー

たまき 辛気臭いと言っちゃって

中川 ですよー

たまき ロックが大好きで。ストーンズ最高よ、なんて(笑)

中川 ふーん

たまき 無理にチケット買わされたのかしら

中川 そうそう！言っていました。そんなようなこと

笑う二人。みのりが電話を終えて戻って来る。

みのり 帰った？あの人

たまき 失礼でしょ。お客さんの前でメールしたり電話したり

みのり (中川に) すいません

中川 いえ。あの、ちょっとお手洗いをお借りしても…

たまき あ、どうぞ。その廊下の突き当たりです

中川、縁側からトイレへ去る。室内は身内だけの空気に。笑顔が消えるたまき。

いずみ ……お姉ちゃん

たまき・みのり ん？

いずみ 何でもない

みのり しかし、初対面でよくあんだけ愚痴るよね

たまき ストレス溜まってたんでしょ

みのり もう自分に酔ってたよ途中から

いずみ 可愛そうだよ。ご主人ひどいと思う

たまき　みのり、アンタも同じよ。その人、お子さんもいるんでしょ？

みのり　ここでアタシの話かよ

たまき　不倫のまんまで一緒に暮らすなんて

みのり　や、だからあ神戸行ってしばらくしたら離婚すんの。それで私と籍入れんの
たまき　じゃあ行く前に離婚すればいいじゃない

みのり　だから彼にとってチャンスなの。栄転なの。奥さんが理事の娘だからさ、アツチ行
って実績作って。それから離婚に持っていくって

いずみ　実績作ってもクビになるんじゃない？ そんなの

たまき　そうよ。それに、実績っていつまでに作れるのよ

みのり　すぐだよ

たまき　じゃあ実績作って離婚成立してから行きなさいよ

みのり　もゝ

たまき　あんたさ、いつも言ってるけど順番メチャクチャだよ。結婚するならまず、こうい
う人が居ますって家族に知らせて、一緒に挨拶に来て。それからでしょ？

いずみ　あの、家族に知らせてるのは絶対なの？

たまき　当たり前じゃない。身上書を持って来いとまでは言わない。前もって電話でもいい
から知らせて、家族の了解得て進めるもんでしょ

いずみ　そっか

みのり　古いよそんなの

いずみ　だよね

たまき　古くないわよ。当人だけの問題じゃないんだから

みのり　もういいよ。お金貸してくれなくていいから、放つといてよ

たまき　お金じゃなくて人生の問題でしょ

みのり　アタシの人生はアタシが決めます。親でもなくせに

たまき　父さんが生きてたら、絶対許さないから

中川がトイレから戻って縁側に立っていた。

いずみ　ヨッスイ…

たまき　（いずみに）え？

中川　戻りましたあ

庭に田邊圭佑が来る。前掛けにジャンパー姿。

田邊 ごめん。遅くなった！

たまき あ、ありがとう

いずみ 田邊さん

田邊 お、いずみちゃん。久しぶり

田邊に会釈する中川。田邊も少し『？』となりつつも会釈を返す。

みのり どうも

田邊 ……おうっ、元気？

みのり それなりに

田邊 (たまきに) ちょっと、手伝ってもらっていい？

たまき うん。お勝手の方に入れるね。みのりも

みのり ええ

たまき ちょっと失礼します

中川 はい

たまきは縁側から別室へ去る。みのりも渋々たまきを追って去る。

田邊も庭から去る。スマホを出し、メールを打ち始めるいずみ。

中川 ねえ、さっきの何？

いずみ え？

中川 さっき、お父さんが絶対許さないって。あれ

いずみ 違う違う。みー姉の不倫の話

中川 不倫?!

いずみ 不倫相手が単身赴任するんだって。それについてくって。明日

中川 明日?!

いずみ いちいちビックリしないでよ

中川 ビックリするでしょ普通

いずみ ウチではよくあることなの。だから大丈夫

中川 大丈夫じゃないよ。…いずみちゃん

メールを止めさせようとする中川。負けずにメールを打ついずみ。

いずみ やめてよ。…おつかしいなあ

中川 考えたんだけどさあ

いずみ どこにいのよもお

中川 考えたんだけどさあ…ちよつ、もう聞いて（力づくでメールを止めさせる）

いずみ 何よっ

中川 やっぱりやめよう

いずみ ……何言ってるの？

中川 いや挨拶をね。また改めよう。これじゃあさ、上手く行く話も行かなくなるよ
いずみ だってもう顔見られちゃったじゃん。後からそうでしたなんて言えないじゃん

中川 ……何とかする。出直してじっくり作戦練ろう。ね

いずみ 嫌だ。無理だよ。絶対無理

中川 やっぱり非常識だよ。いきなり七回忌に来て

いずみ 七回忌だから今日にしたんじゃない。お父さん帰って来てるもん。お父さんにも聞いてもらって、認めてもらいたい。家族全員に祝福されたい。それで結婚したいの

中川 じゃあ何で同僚とか

いずみ 後輩

中川 後輩とかって嘘つくの？ 電車から降りたら道を聞かれて？ そしたら父の会社の後輩でって。そんな偶然が偶然を呼ぶことある？

いずみ あるんじゃない？

中川 いずみちゃんっ

いずみ 自分だっけ乗っかってきたじゃん

中川 えー、俺が悪いの？

いずみ 否定すれば良かったじゃない

中川 嘘でしょ。あの状況で？ お父さんの後輩だそうなんですって言われて『いやいやお姉さん違いますよ』ってすぐ？ いやもうそんな機転は

いずみ 言ってくればあたしだって

中川 大体、何でお姉さんに言っというてくれないの

いずみ ……だから、何となく言いそびれたっていうか。タイミング失ったって言うか
中川 つまりあれでしょ？いずみちゃん自身が、俺とのこと踏ん切りついてないってこと
でしょ

いずみ 違うよ

中川 いやいやそうだよ

いずみ そんなんじゃないよ

中川 そうなんだよ。まあ、考え直したいんじゃないよ

いずみ 何言ってるのよ！

中川 無理強いはしたくないからね

いずみ そんな訳ないでしょ。そんな訳ないじゃん！

中川 (いずみの口を押さえて) 声大きい

口を押さえられたまま中川をポカポカ殴るいずみ。思わず手を放す中川。

中川 痛い痛いっ

いずみ バカッ！意気地なしっ！自分が勇気ないんですよ！だからそんな事言っ

中川 (再びいずみの口を押さえ) 違うよ

いずみ (その手を払って) ヨッスイ！

中川 何っ

いずみ キスして

中川 何で?!

いずみ して。そして腹くくって。今日挨拶するって約束してっ

中川 な、今？

いずみ 今！

中川 もう皆さんが

いずみ、抱きつく。そして熱いキス。縁側から田邊が居間に入って来る。
素早く離れる中川といずみ。

田邊 すいません(出て行こうと)

中川 あ、大丈夫です

間。

田邊 田邊です

中川 中川です

間。

田邊 え？

中川 え？

田邊 …あ、いえ

田邊、手にしていた布巾で座卓を拭き始める。

いずみ 父の会社の後輩の方です

中川 ええ〜

田邊 へえ〜

台所の方が、別室から大きな物音。たまきとみのりが言い争う声。

田邊 おい、大丈夫か？

いずみ ごめん。ちょっと

物音のする方へ去る田邊といずみ。

中川 ……どうなってくんだ一体。(携帯が鳴る) もしもし？…何？…え？…まだ…何や
ってんのって色々取り込んでんだよ法事なんだから……何でそんな時にしたのって、知ら
ねえよ俺の方が聞きたいよ……うん、言う言う。大丈夫だから。東洋(トウヨウ)は？
昼寝？ あそう……もし断られたらって何よ。大丈夫。断られない……うわっ！

腐葉土や肥料の袋を抱えた老人が、庭から中川を見ている。

中川 いや、こっちの話。……首に縄って恐ろしいこと言うな！ もう切るよ

電話を切る中川。黙って中川を見ている老人。肥料の袋を落とした。

中川 あ、大丈夫ですか？

老人 和哉くんか？

中川 ……いえ、中川です

老人 (思いのほか大きな声で) え?!

中川 中川です。…こちらの、お父さんの後輩の…

老人 一平さんの？

中川 いっぺ?…ええ、どうぞですよっ?

老人 一平さんなら帰らんよ。もう何年も帰ってない

中川 はあ

老人 ツルちゃんは？

中川 ? ……さあ

不満そうに鼻を鳴らし、肥料を拾って去る老人。見送って縁側へ出る中川。

中川 あれって……

押されるように縁側を飛び出して来たみのりにぶつかり、庭に落ちる中川。
みのりと言い争いながらたまきが、続いて、いずみ、田邊も入って来る。

みのり ちょっとやめてよ!

中川 アイテッ!

たまき 圭佑に謝って

いずみ ヨッスイ!

田邊 俺はいいから

たまき 良くない

みのり だってホントの事じゃん。ずっと首に縄つけられて、いい加減別れてあげれば?

たまき あんたとは違うのよ。私たちは時間をかけて色々考えてんの

みのり こっちだってちゃんと考えてるよ。ただの気の迷いって何だよ!

たまき じゃあ早く言いなさいよ! いきなり法事で言っこと? 非常識にも程があるわよ!

うなだれる中川といずみ。

たまき 全部そう。信金辞めた時も、変な占い師とアメリカで暮らすって言い出した時も。

信金なんて辞めてから報告したよね？ 叔母さんのコネで入社したのに

田邊 そうい話は、ちよっと落ち着いてからさ

たまき ……(中川に)すいません

中川 こちらこそ、すいません

たまき じゃ、お弁当頂きましようか。中川さんもこちらに

中川 私はあの

みのり そんなだから何も言えなくなるんじゃない

田邊 みのりちゃん

みのり どうせ反対するから。あんたがバカだって相手にしないから。だから話したくなく

なるんじゃない！

たまき だってそうじゃない。いつも騙されて。あたし達が尻拭いして来たんじゃない

みのり 今度は違う

たまき 今度もそうだよ。単身赴任先に愛人連れ込むような人

みのり 愛人じゃないもん。約束したもん。子供が小学校入ったら離婚するって。あと半年

なんだもん

たまき 何やってるか分かってんの？

みのり しょうがないじゃない。好きなんだから！

たまき しょうがないで済んだら警察要らない！

みのり 何それ

たまき あんたは男を見る目がないのよ。いい加減目え覚まして

みのり 見る目がないのは遺伝です！ 父さんが女運最悪だったから私も男運最悪なの！

たまき、みのりに向かって行く。それを止める田邊。

田邊 ちよっともうっ

たまき こんな日に何てこと言うのっ

みのり 自分だって男運最悪じゃん！

たまき は？ 謝んなさい圭佑！

田邊 俺はいいから落ち着いてっ

みのり いずみだってそうだよ。男運最悪だよ！

いずみ 違うよ！

中川 違うんじゃないかな！

たまき 親不孝者！父さんが死んだ時も遊んでたクセに

田邊 それは…

みのり 遊んでない！まだ疑ってるの？そういう性格だから結婚してもらえないんだよ！

田邊を振り払い、みのりに掴みかかるたまき。みのりも応戦。止めに入る田邊

と中川。庭に喪服姿の女が入って来る。帽子についたネットで顔は見えない。

居間で起きている騒動に右往左往。

いずみ もうやめてよ！（自分も止めに入ろうと）

女、居間に入り込み、いずみを安全な場所へと。そして自分が止めに入る。

いずみ あれ？

ケンカに揉まれているうちに女の帽子が取れる。女はいずみの母、元子。

元子 やめなさい！！

元子の声にいったん争いをやめる一同。

いずみ もっちゃん遅いよ！

元子 ごめんね。家出たのは早かったのよ。でも、藤沢のトイレで携帯落としちゃって

いずみ だから繋がらなかったんだ

元子 AUショップ行ってさ、すぐ代替え渡すって言われたのに、まあもたもた。すっか

り時間食っちゃって。で、渡されたのがこれ。スマホ？もうチンパンカンパン。で、江ノ

電降りたら道に迷っちゃって、これで調べようと思ったんだけど、まあチンパンカンパン

中川 お母さん

元子 あ、中川さん。先日は

中川 どうして…

いずみ 私が呼んだの

たまき …元子さん

元子 (改めて正座し)皆様、ご無沙汰しております。この度は、大事な法要に遅れまして、誠に申し訳ございません。本来、お父様と別れた私が、しゃしゃり出る幕ではない。出すぎたマネだという事は重々承知しております。しかし、娘のたつての頼み。お叱りを受ける覚悟で出て参りました

いずみ あ、あの

元子 いずみの為に皆さんが揉めるのは当然です。しかしどうかこの通り。二人の結婚を、許してやって下さい！

いずみ もっちゃん

みのり 二人って？

しばし沈黙の後、おずおすとたまきの前に出て正座する中川。

中川 ……いずみさんを、私に下さい

手をついて頭を下げる中川。いずみも隣に座り、頭を下げる。暗転。

【二場】昼食後

たまきとみのりはいない。いずみはふてくされ、元子は縁側に腰掛けてメロンパンをかじっている。

田邊 海洋生物っていうと、やっぱり魚ですか？

中川 まあ、魚もやりますが、今は主にヒトデの研究です

田邊 ヒトデ？あの星形の？

中川 そう星形の。ま、色んな形のヒトデが居るんですけどね。こんなまあいい、マンジュウヒトデってのもいるんですよ。あと、体はこのぐらいで細長い足が何本もあるのとか

田邊 タコみたいですね

中川 おしい！これはクモヒトデって言っんです。こいつが面白くてですね。本体は岩の間やなんか隠れてて、足だけ水中に揺れてるんです。で、漂う餌の粒を捕って食べる

田邊 へえ

中川 しかしこう、足が外に出ていると他の生物に捕食されますね。パクっと。どうなると思います？

田邊 ……さあ

中川 食べられた足を切り離して逃げるんです。そしてまた生えてくる

田邊 トカゲの尻尾だ

中川 まさにそう。トカゲの尻尾と同じです。英語では『壊れやすいヒトデ』って呼ばれてるんですよ

田邊 ふーん

中川 ヒトデはキョクヒ動物と呼ばれてまして。あ、棘の皮と書いてキョクヒです。棘皮動物にはこの自切と再生をするものが結構います。ちよっと違いますけどナマコ？ナマコも棘皮動物の一種なんですけど、彼らは敵に襲われると体内のありったけの内臓を肛門から吐き出すんですねえ

元子、メロンパンを食べつつむせる。

中川 こう煙のようにぶわあっと。そして吐き出した内臓で、敵をがんにがらめにして逃げます。内臓がないから、こんなに小さく萎んじやいますけど。内臓が無いぞう、なんて

間。田邊、何か考え事をしているのか無反応。

中川 つまらないですか？

田邊 あ、いや感心しちゃって。また生えてくるんですか？ 内臓は

中川 はい。大体半年から一年で再生します

田邊 へへ。さすが先生ですね

中川 いやこんなのは序の口です。生物の世界は多種多様ですから、学んでも学んでもきりがない。だから面白い

田邊 いいですね。好きなことを仕事にされて

中川 田邊さんだって、美味しいお弁当を作って喜ばれて、最高じゃないですか

田邊 ええまあ

中川 いや実に美味しかった。ご飯はふつくら。地鶏の照焼きも味付けがよくて。ねえ
いずみ うん

田邊 ありがとうございます

中川 それにしても、サラリーマンから急にお弁当屋さんというのは大変だったでしょう
田邊 ええ、まあ。でも、子供の頃から見てましたから

中川 なるほど。いやホントに美味しかったなあ。お母さんも少し食べれば良かったのに
元子 結構です。法事にも出てませんし。どうせ何の役にも立ってませんから

中川 …またあ

黙ってメロンパンをかじり続ける元子。

田邊 あの、僕ちよっと様子見て来ます

中川 ああ。本当に、申し訳ありません

田邊 大丈夫ですよ、多分

縁側から去る田邊。二階へ行った様子。

いずみ (元子に) もういいよ。連絡できなかったのは分かったから。でも、もうちよっと落

ち着いてさあ

元子 落ち着ける？ あんな状態で。いずみちゃんと中川さんのことだと思っじやない

いずみ その後。勢いづいちゃって。テンション上がり過ぎだよ

元子 上げて来たんだもん。十六年ぶりよ、ここ来るの。そりやもう敵陣に乗り込むつもりで来たわよ。いずみちゃんの為に

いずみ そうだけど

中川 私が頼りないのがいけないんですから

いずみ 違うよ

元子 うん。そうじゃない。そういうことじゃない

みのりがスマホで話しながら入って来る。

みのり えゝそんな狭いの？…困るって。だって生活できないじゃん…だから要らない物は捨てるよ…え、筆筒はいるよ一個ぐらい…んな事言われても…もういいよ。取りあえず明日。でも荷物は送るからね…切った。何だよ。…（中川に）どうも

中川 どうも

みのり 姉さんは？

いずみ …まだ、具合悪いみたい

中川 …すいません

みのり ま、大丈夫っしょ。てか中川さんスゴイ、大学講師なんて。超モテそう

中川 いやいや、モテませんよ

みのり ホントおゝ？

中川 ホントですよゝ

中川、照れ笑い。いずみが睨んでいる。みのり、親指と人差し指で円を作り

みのり これもいいんでしょ？

中川 いやそんな。最近では学生も減ってますから。いつクビ切られるか、戦々恐々です

いずみ ミー姉

みのり ん？

いずみ 今の、不倫の人？

みのり そうだけど

いずみ どういう人？

みのり どういうって、ホテルマンだよ。宴会部のキャプテン。あれだよ。宴会つつつても婚禮とか大企業のパーティーとかだよ。忘年会じゃないからね

いずみ 分かるよそれぐらい。仕事じゃなくて人間的に。信用できんの？

みのり 当たり前じゃん

中川の携帯が鳴る。

中川 あ、すみません。…もしもし、何？…うん。話したよ……どうだったって、大丈夫だよ…え？（いずみを見て）いいよ、代わらないよ……いいってもう、それどころじゃないから。じゃあね

一方的に電話を切る中川。

いずみ お母さん？

中川 うん。何か色々心配して。いやーお恥ずかしい

みのり マザコン？

中川 違いますよお

いずみ やめてよ

元子 男なんてみんなマザコンよ

中川 え…

元子 ここで庭見てたら思い出しちゃった。毎日毎日ツル子さんに怒られて。言われても覚えられなくて、また怒られて。でも、言われた通りにやっても結局文句言われんのよね
いずみ 父さんどうしてたの？

元子 ー？ 何か、ウロウロしてた

いずみ ウロウロ

元子 お母さんにはね、頭上がらないのよ。理不尽だなと思っても逆らえないっていうか
みのり ツル婆あ相手じゃ無理ですよ。自分のやり方しか認めないもん。台所手伝ったらやる事なす事全部怒られて。具合悪そうだから氣遣ってやってんのに。思いやりとかそういうの、感じる力ないんすよ

いずみ 言いすぎだよ

みのり や、そうだよ。いつも不機嫌でさ。笑ったとこ見たことないもん。あんな性格だから爺ちゃんも出てったんだよ。多分あたしの母親も

中川 亡くなったんじゃないんですか？

みのり おじいちゃん？

中川 いや、お母さん

みのり 亡くなったのは姉の母です。私のは浮気してトンズラ

中川 ……そうなんですか

みのり びっくりしました？

中川 いえそんな

みのり 三回結婚して一回目は死別。あと二回離婚。ウチの父親、マジ女運最悪だから

元子 最悪ですいません

みのり や、最悪っていうのは運が。女じゃなくて……ホントに最悪なのは私の母親だけ

元子 ……そんなこと言うもんじゃないわ

みのり だって本当だもん。元子さんははずみと会ってたんでしょ？ あたしの母親なんか

会いに来たこと一回もないから

中川 どこにいらっしやるんですか？

みのり 知りません。おかげで私は、父に嫌われっぱなしで

いずみ ミー姉が反抗するからじゃん

元子 (庭の方に目をやり) あれ？…

庭にまた、あの老人が来ている。手が土で汚れている。

中川 あ、さっきの

いずみ ぎっちゃんっ

元子 義一朗さん。まあお久しぶりです。お元気そつで

中川 隣の伯父さん？

いずみ うん

みのり ねえあの、名刺は？

いずみ たま姉えが持ってる

義一朗 ヨシエちゃんか？ 大きくなったなあ

元子 え？…はい…

義一朗 昔はよく、ここで相撲取っとったろう。(中川を指し) 和哉君と

中川 え、俺？

元子 …ああ

義一朗 女の子なのに力があって。和哉君を投げ飛ばして。なあ

義一朗、笑う。元子も一応笑う。

いずみ もっちゃんが叔母さんで、ヨッスイが父さんだったら私たちって何？

みのり さあ？……ぎっちゃん、あのさあ

義一朗 母さんは？

元子 え？

義一朗 ツルちゃんは？

元子 ああ、……買い物に

みのり 買い物って

庭の入り口から真澄が走りこんで来る。

真澄 伯父さん！

義一朗を無理やり連れて行くこととする真澄。

義一朗 放せっ、放さんか！

真澄 放しません！

元子 え、誰っ？

いずみ 真澄さん。ぎっちゃんの姪っ子

義一朗 悦子っ！

元子 悦子って言ってるけど

義一朗 フランスになんぞ行かん！

真澄 ダメっ！みんな行くんだからっ。もう決まったんだからっ

義一朗 行かん。日本でいい。日本が好きだ！

元子 ちよ、ちよっと

真澄 美味しいもの一杯食べられるんだから。フォアグラ、トリュフ、エスカルゴ、ラー

メン！

義一朗 食わんでいい！

真澄 我儘言わないで！ お騒がせしてすみません。さっき見つけたんですけど、目を放したら

真澄、力ずくで義一朗を連れて去る。

義一朗の声 カタツムリなんぞ食わーんっ
いずみ 知ってるんだね。カタツムリって
みのり てか、ラーメンだったよね

田邊と、普段着に着替えたたまきが入ってくる。

たまき 失礼しました

中川 大丈夫ですか？

たまき 大丈夫です。最近ちょっと貧血気味で。お騒がせしました

中川 とんでもない。私の方こそこんな日に。非常識お許し下さい。そして、たまきさんのお弁当を頂いてしまって、すみません

たまき それはいいですよ。食欲なかったんで

いずみ ごめんなさい。今日にしようって言ったの私なの。ヨッスイはやめた方がいいって言ったんだけど。悪いの私だから

元子 私も、そのタイミングはどうかと思いつながら止めなかったんです。悪いのは私です
いずみ もっちゃん

元子 まあ私のことも中川さんのことも、一言いってあるのかなとは思ってたんですけど
いずみ ごめん。…までも、こういうのは急に切り出すもんかなって

たまき 言うよね普通。会わせたい人がいるとか何とか。急に知らない人連れて来て、お父さんの同僚って

いずみ 後輩

たまき 後輩って言われても。ただただ中川さんが非常識な人だなあってことになっちゃう
じゃない

中川 すいません

いずみ 何か咄嗟に嘘ついちゃって。もっちゃんも来ないし。動揺して

元子 ごめんね。携帯トイレに落としちゃって。AUショップがまあもたもた。それと電車降りたら

たまき その話はどういいです。いつから会ってたんですか？

中川 あれは確か、二年前の

たまき ごめんなさい。元子さんといずみです

中川 ああ

元子 あ、えっと……

いずみ 子供の頃からちよくちよく。卒業式とか入学式とか、誕生日とか。父さんと一緒に

みのり げく全然知らなかった

いずみ 父さん内緒だって言うから

みのり 何それ

元子 すみません

いずみ もっちゃんが謝ることないよ。私は別に、何で会っちゃいけないのって思ってたし。

姉さんたちにも言おうって言ったもん

たまき 何て言ったの？ 父さん

いずみ 姉さんたちはもうお母さんと会えないから。かわいそうだからって

みのり ムカつく。そういうチマチマしたところがやなんだよ

田邊 そういう話はまた出来るでしょ。今は二人のさ

たまき うん。……中川さん

中川 はい

たまき 率直に言って、今回のお話、もう少し時間をかけて考えた方がいいと思うんです

中川 ……はい

いずみ 何で？

たまき いずみはまだ学生です。院を修了して一般社会に出てからでも遅くないと思います

いずみ 一般社会って、私就職する気ないよ

たまき 何で?!

いずみ 大学残って、ヨッスイと一緒にヒトデの研究するから

みのり ヒトデ？（笑）

たまき 約束違うじゃない。院に行きたいって言った時、ちゃんと就職するって

いずみ やりたいこと変わったんだもん。しょうがないじゃん

みのり で、ヒトデの研究？（笑）

たまき 何の役に立つんですか？ ヒトデって

中川 え？

たまき 食べられるとか。資源になるとか薬とか？

中川 食べられますよ。天草では、ちょうど今ぐらいの時期、マヒトデの卵巣を食べます

たまき 卵巣…

中川 私は食べたことありませんけど、味はかに味噌とかウニに似ているそうです。薬はですね、ヒトデの持っているガングリオシドやステロイドサポニン。EPAやDHAを使ったサプリメントが研究されています。あと、ヒトデコラーゲンペプチドを回収して化粧品
の保湿成分にしたり

いずみ そう、色々役に立つよね

元子 へえ

中川 中国には、骨折を治す薬で、ヒトデとゴキブリから作った漢方薬もありますし

元子 ゴキ…

中川 日本でも昔から(元子に)知りませんか？ 肥料にすると害虫が寄って来ないし、汲み取り式の便所に

いずみ ヨッスイ

中川 失礼。トイレにヒトデをいくつか落とすんです。するとハエがわかないっていう

元子 知りません

中川 そうですか。海沿いの村でよく使われたらしいですよ。ここよりもう少し海の方に
行けば

たまき 分かりました

中川 あ、ご存知ですか？

たまき そうじゃなくて、中川さんの研究については分かりました

中川 いや、私はトイレにヒトデを落としたり、そんなことはやってません。今やっているのはヒトデの形態形成研究です。ヒトデは六億年前から地球上にいるんです。ヒトデのような棘皮動物は脊椎動物の先祖にあたるんですよ。ヒトデの研究をすることで、人間のことも沢山分かります。いや、ヒトデだけじゃありません。どんな研究も、生き物を学ぶ
ということは、ひいては自分自身を知ることになります。人間も生物の一種ですから

話を聞きながら何度もうなづくいずみ。笑いをこらえているのみ。

田邊

なるほど

たまき …あの、話題を変えてもいいですか？

中川 どうぞ

たまき 大学講師というのは立派なお仕事だと思いますけど、教授ではないんですよね？

中川 はあ、そうです

たまき 講師のお仕事って、この先も続けられる保障あるんですか？

いずみ 保障なんか、教授になっただってないよ

みのり そうだよ。サラリーマンだって、リストラされることもあるし。ねえ田邊さん

田邊 (笑) そうだね

たまき チャチャ入れないでっ

みのり、居間から出て行くこうとする。

たまき どこ行くの？

みのり 上で着替えてくる

たまき 後でいいでしょ。大事な話なんだから

みのり ヤだ。喪服だと疲れる

みのり、二階へと去る。たまき、気を取り直し

たまき ちなみに、講師になる前に、企業にお勤めになったことはあるんですか？

中川 いえ……学生の時に後樂園で、たこ焼きとかソフトクリームなんかを売ったりは

たまき バイトですよねそれ

中川 そうですね

たまき じゃあ、もし今のお仕事が無くなったら一般企業に再就職したりは難しいですよ

いずみ そんなことないよ。色々あるよ。水族館とか官公庁とか、他の大学に行けばいいし

たまき 失礼ですけど、中川さんってお幾つなんですか？

中川 四十八です

たまき じゃあ二十五歳差？

いずみ 関係ないよ、そんなの

たまき あるでしょ。中川さん、将来の可能性って、年齢と共に小さくなるって思いませんか？

中川 ……思います

いずみ ヨッスイ

たまき それに、仕事のことは抜きにしても、それだけの年の差ってどうかと思います

いずみ 今は年の差婚が主流じゃん。加藤茶なんて、四十六歳差だよ！

たまき 加藤茶は芸能人でしょ。それにお金持ちじゃない

いずみ ヨッスイだってそれなりにお金持ちだよ！

中川 いずみちゃんっ

いずみ 持ち家だし、お母さんなんか那須高原でアートフラワーの先生してんだよ。那須高

原でアートフラワーだよ！

中川 大丈夫。落ち着いて

いずみ だって

たまき あんたのこと憎くて言ってんじゃないの。恋愛には年齢関係ないかもしれないけど、

結婚にはあるって私は思う。中川さん、お母様はお幾つなんですか？

中川 七十三です

いずみ お母さんは元気だよ。すごい元気

たまき 今は元気でも、いずれあんたがお世話しなきゃいけないの。それが一段落した

ら今度は中川さんのお世話もあんたがするの。それにお子さんもいらっしやるんでしょ？

中川 はい

たまき じゃあいずみは、お子さんとお母さん。お子さんと中川さん。もし子供が生まれた

ら自分の子供の世話をし続けて一生の一番元気な時期を終えるんだよ。二十代、三十代、

四十代、五十代。苦労し続けてようやくそれが終わったら一人になってる。同年代のご主

人だったら、一緒に老後を楽しめるかもしれないけど。そんなこと考えてないでしょ？！

田邊 もうちょっと冷静に話そう。な

いずみ 平気だよ。東洋くんはいい子だし、私になついてるし。お母さんだって優しいし…

たまき お子さんってお幾つなんですか？

中川 十歳です

たまき ほら見なさい。これから反抗期じゃない。子供はそんなに簡単じゃないのよ

元子 そうね…

たまき 大人だって元気な時は優しくても、病気になったり年を取ればそうもいかないの。

嘘みたいに変わるのよ。父さんの時手伝ったんだから分かるでしょ？

いずみ だって……

鞆から書類を取り出して、たまきに渡す中川。書類に目を通し始めるたまき。

中川 ……こんなものでいずみさんとの将来を保障できるとは思いません。ですが、せめて今の状況を確認して頂きたいと思って持って来ました。心臓、肝臓、肺、胃も腸も、血液検査も全部やりました。今のところ悪いところは何一つありません。酒は、まあ少しやりますが、煙草は一切吸いません。研究で、六年ほど沖繩の大学に居まして、海に潜りますので、それなりに体力作りもしてます。これからはもっと健康に気をつけます。一日でも長く元気でいられる様に。母に万一のことであっても、いずみさんだけに苦勞かける様なことはしません。もちろん、子供も協力して一緒に育てます。仕事も、何とか准教授にはなれる様に頑張ります

普段着に着替えたみのりが、縁側に立っている。

みのり そしたら収入上がるんですか？

中川 ……まあ、それは

みのり へー、いいなあ

たまきから中川の診断書を取り上げて読むみのり。

みのり すごい。田邊さん、同じ男としてどうっすか？好きな人と結婚する為にこんなに努力して。素晴らしいですよ

田邊 (笑) そうだね

みのり もう許してあげなよ。結婚なんて当人同士の問題じゃん。中川さん、こんなに頑張ってるんだよ

たまき 無責任なこと言わないで

みのり あたしには発言する権利ないの？

たまき 結婚して何かあってもあんた何にもしないでしょ。どうせ私に押し付けるじゃないみのり またそれかよ。自分から拒絶するクセに

たまき いつ拒絶したのよ私が

田邊 今二人の話だから。まあ俺が口出しすることじゃないけど、あんなったらどうしよう、こうなったらどうしようっつってもさ、前に進めないんじゃないかな？ ホント俺が言

うことじゃないけど(笑)

たまき 結局責任取るのは私なんかもん

みのり そんな訳ないじゃん。中川さん立派な大人だよ。てか、私らより年上でしょ

たまき だからそれが問題なんじゃない！

みのり え？ 中川さん何歳？

中川 四十八です

みのり あ、二十五歳差？ ちょっとびっくり

いずみ さっきしたからその話

たまき 中川さん、ウチはもう私たち姉妹だけなんです。私だっていつまでもいずみの面倒見られないし。失礼なこと言いましたけど、未永く安心してお任せできる方と結婚して欲しいんです。分かって頂けますよね？

中川もいずみも黙っている。縁側の元子が挙手。挙手をしながらたまきの前へ。

たまき 何ですか？

元子 たまきさん、私が口出しする立場じゃないのは分かっています。今更、母親面するなと思っただけだと思います。お父さんの入院中も何も出来ず。なのに突然やってきて。

しかも法事にも出られず。なぜなら携帯をトイレに落とすというアクシデントに見舞われたまき それはもう分かりましたっ

元子 本当に無責任なことをいいます。もし何かあっても、責任はいずみちゃん本人が取ると思います。たまきさんが思ってるより、いずみちゃんは大人です。しっかり勉強して難しい大学に入って。奨学金受けながらアルバイトして寮費も払って。自分の娘だから鼻屑目にもてるんじゃないと思います。この間久しぶりに会って、何て立派な大人になったんだろって感心しました。もちろん私の力じゃありません。和哉さんやたまきさん、皆さんの力だと思っています。だからこそもうちょっと信頼して、自分のことは任せてあげて欲しいな

いずみ もっちゃん

中川 お母さん

元子 まあ、同じ年の中川さんに『お母さん』なんて言われると、正直、複雑な気持ちですけど。でも中川さんも本当に素敵な人です。お仕事しながら、男手一つでお子さん育てて。別れた私と言うことじゃありませんけど、皆さんのお父さんもそうだったでしょ？

私、自信持って言えます。この二人が結婚して悪いことなんて絶対ないって

みのり そうそう。何とかなるよ

たまき どこから来るんですか？その自信は

元子 ……え

たまき あなたですよね？年の離れた父と結婚して、祖母とケンカばかり。私達ともうま
くいなくて、逃げ出したんじゃないんですか？

元子 ……

みのり しょうがないよ。ツル婆あは特別だもん

いずみ ていうか、私ヨッスイのお母さんと仲いいもん。超面白いんだよ茉里亜さん

みのり マリアさんって言うんだ

中川 お姉さん、母といずみさんの間に何があっても、私は逃げません。信じてください

沈黙。

みのり もういんじゃない？姉さん一人で頑張ったってさ。ほら、結婚に賛成の人。一、二

みのり、田邊の方を見るが、微妙な表情の田邊。

みのり 賛成が二。分からない人一。反対一。二対一で賛成の

たまき 一じゃない

みのり え？

たまき 父さんがいる

みのり やめてよ

たまき 父さん絶対反対してる。自分が結婚で苦労したのに。こんなの賛成するはずない

みのり バカみたい。イタコでも呼ぶ？

元子 和哉さんは賛成してくれています！

たまき あなたにそんなこと

元子 私たち、結婚には失敗しました。でも結婚しなければ良かったとは思ってません。

お互い想い合って一緒になったんです。いずみちゃんが生まれて、私も和哉さんも幸せで
した。嫌いになって別れたワケじゃありません

たまき じゃあ祖母や私たちのせいですか？

元子 ……そうじゃなくて。今思えば、やっぱり自分のせいだと思います。ちょっとしたことでも我慢できなくて。ツル子さんに憎まれてると思ひ込んで。バカだったから、お母さんか私かどっちか選んでくれなんて。あの人がお母さん捨てるようなことできないって知ってるのに。だからダメになったんです。…でも今は、結婚して良かったって思ってます。いずみちゃんの母親になれて良かったって。この前、私のこと母親として中川さんに紹介してくれました。嬉しかった。私には子供がいるんだって。私は母親なんだって思いました。それだけで色んなことから救われた気がします。和哉さんと結婚して、いずみちゃんを産んで、別れて、それで今の自分がいるんです。あの人も辛かったと思う。でも、たまきさんやみのりさん、いずみちゃんの父親になれて良かったって思ってます。別れちゃったけど、苦労したかもしれないけど、結婚しなきゃ良かったなんて思うはずない！

元子、泣く。真澄が形相を変えて庭に走り込んで来る。

みのり また…

田邊 え、誰？

みのり お隣の姪っ子

真澄、居間に入り込み、元子とたまきの間を臥して泣く。

田邊 え、ちょっとっ

真澄 また居なくなっちゃったんです

みのり ぎっちゃんが？

真澄 逃げ出したんです

田邊 え？

真澄 実は、実家を売ることにしたんです。これ以上、伯父と暮らすのは無理です。前からいい施設がないか探してたんですけど、百合ヶ丘にとってもいい所があって。森と泉に囲まれたお城みたいな所で、野鳥が庭に遊びに来るんです。ロビーにはこの部屋いっぱいぐらいの花が飾ってあって。椅子は大理石だし、クッションなんて全部フルが付いて。四隅に。まるで海外のリゾート地みたいな。南フランスの避暑地みたいところなんです

みのり それでフランスか

真澄 行ったことありませんけど南フランス。希望すれば庭にガーデニングスペースも持

てるんです。皆さん野菜作ったり花を育てたりして、それは楽しそうなんですよ。ご飯も美味しいし。こんなところで暮らしたら、今の生活には絶対戻れないって思うぐらい素晴らしい所なんです。母にカタログ見せたら、ここなら兄さんも喜ぶんじゃないかって。でも入所金がとつても高くて。で、思いついたんです。この先、実家を継ぐ人はいません。伯父には子供がいらないんですから。さっき不動産屋に査定してもらったら、行けそうなんですよ百合ヶ丘（更に泣く）

みのり でも、ぎっちゃん、そこが嫌で逃げたんじゃ

真澄 その話はしてません。フランスだって。南フランスに家族旅行だって

みのり すぐバレルよ

真澄 とりあえず行って。そしたら絶対気に入ると思うんです百合ヶ丘

みのり そうかなあ

田邊 ぎっちゃんって？

みのり 隣の日野さん

田邊 日野…ああ、随分見てないけど

真澄 ウチで引き取ってましたので

田邊 そうなんですか。でもとにかく、ここはちょっと

田邊、真澄を立たせようとする。結構重い。

真澄 すいません。お取り込み中にく

田邊 あの、自分で立つてもらえますか？

真澄 私の嘘に気づいたんでしょうね。それで

田邊 まあ落ち着いて。あっちで

縁側を、田邊にひっぱられて連れて行かれる真澄。

真澄 ちゃんと椅子に縛っておいたのに

田邊 そんなことしたんですか？

真澄 手品みたいに縄抜けされて。もし伯父がこのまま事故にでも遭ったら私、鬼嫁って

言われちゃう

田邊の声 姪っ子さんでしょ？

真澄の声 鬼姪って言われちゃう

変わらず泣いている元子と、それを見ているたまき。

たまき 変わりませんね。言い合いになるとそうやって泣いて。結局、祖母が悪者になるんですよ。泣かれる方も辛かったと思いますよ。私は

元子 ごめんなさい。私バカだから。……本当に、泣かない人だったわね。ツル子さんはみのり 鉄の女だから。あれだよあれ。父さんよく言った。長谷川家のサッチャーって

たまき やめてよ。くだらない。

みのり 姉さんもだよ。鉄の女

たまき あなたは結婚して、いずみを産んで、別れても幸せだったって言えるかもしれないせん。でもその後、父は祖母を看取って、今度は自分が癌になって苦しんで、私たちが父を看取りました。もしあなたがその時一緒に苦労したんだったら、その上でさっきの言葉聞いたら納得したかもしれせん。でもあなた知らないじゃないですか？ 元気な時の父しか

元子 ……

たまき 結婚って、一緒に生活して、子供産んで育て。それで終わりじゃないでしょう？ 必ずその先があるじゃないですか。いずみはそういうこと考えてないから。だから心配してるんです

いずみ 考えてるよ。お父さん死んだ時思ったもん。もし結婚したら、もし先に旦那さんが…そんなことがあったら絶対最後まで一緒にいようって。こうやってずっと手え握ってあげようって。私、覚悟してる。最後までヨッスイと居るもん。絶対にその気持ち変わらないもん

たまき 変わるよ。変わらないと思っても、人は変わるの

田邊が靴を持ち、真澄を連れて戻って来る。

田邊 …俺さ、ぎっちゃんさん？ 一緒に探してくるよ。警察にも寄ってさ
たまき …うん。お願い

田邊 それじゃあ

真澄 本当にお騒がせしました！

田邊 いいからいいから。靴履いて

真澄 はい

庭から去る二人。

中川 お姉さん！ 大丈夫です！

たまき は？

中川 この世界は、生まれては滅びる。それを繰り返す物と、変わらない物。その二つで出ています…多分。だから、大丈夫です

たまき 言ってることが良く分からないんですけど

中川 海は、変わらずそこにあります。でも、その実態は無数の変化の集合体なんです。プランクトン、変態を繰り返して成長する魚たち。目に見えない微生物から鯨のように大きなものまで。みんな、生まれて、子孫を残して死ぬ。その繰り返しの集まりが、変わらない海の正体です。人間もそうです。一人ひとり違います。多種多様です。でもみんな、生まれて、子供を産んで育てて死ぬ。その繰り返しの集まりが、人間社会なんです。世の中の仕組みなんて、結局みんな同じです。お姉さんが仰る通り、人間は変わります。心も体も、お互いの関係も変わります。永遠だと思っていた愛が突然終わることだってあります。

お姉さん、私の前妻は、ある日突然、私の親友の元に走りまわったっ

元子 そうだったの？

中川 ええ。妻とは学生時代に知り合ってそのまま結婚して、ようやく子供もでき、幸せ一杯。そう思っていた矢先です。学生時代からの親友の元に妻が…もうビックリしました。本当にショックで。でも、だからと言って結婚したことは後悔してません。後悔なんかしたってしょうがない。何でも始まって終わる。生まれて死ぬんです。私といずれ皆さんが結婚しても、愛はいつか終わるかもしれません

いずみ ヨッスイ

中川 (いずみを制し) いや、愛が終わる前に、私が終わるかもしれません

いずみ ちょっと

中川 僕は死にましえんなんて、そんな根拠のないこと言えません！でも、どんな終わり方をしても、僕といずみさんが愛し合っていた時間は本当なんです。その事実は無くなりません。何があっても…お父さんも、それぞれのお母さんとそうやって大事な時間を紡いで来られたんじゃないんですか？どんな結末を迎えたとしても、その時間があったことは事実です。そして皆さんがここにいます。生物学をやる人間として、まだ若いいずみさん

と結婚するのは間違ってるんじゃないかと悩んだこともあります。でもそんなことは関係ない！いつか終わるから今、愛するんです。いつか死ぬから今、生きるんです！その時まで、いずみさんを大切にします。お姉さん、お願いします！いずみさんと結婚させて下さい！

手をついて頭を下げる中川。いずみも隣で頭を下げる。沈黙。

たまき もう、好きにしてください

たまき、縁側から去る。

中川 ……これは、許してもらったことで、いいの？

いずみ ……多分

元子 ……良かったわね

いずみ うん

元子、立ち上がるうとして痛そうに足の付け根辺りを押さえる。

いずみ 大丈夫？

元子 うん。座りっぱなしだったから

いずみ ごめんね

元子 大丈夫大丈夫

いずみ ホントに？

元子、うなづきながら縁側の方へ。ポーチから煙草を出して吸い始める。

中川 いずみちゃん

いずみ 何？

中川 ちょっと、肩貸して

いずみ どしたの？

中川 トイレ行きたいんだけど…立てない

いずみの肩を借りて立ち上がる中川。完全に足がしびれている。

中川 イタタタタタタッ

いずみ 大丈夫？ もう〜

いずみにトイレへ誘導されて去って行く中川。

みのり お爺ちゃんみたい

中川の声 イッテッ！

中川はどこかに足でもぶつけたのか。みのりのスマホに電話がかかってくる。

しばらくスマホの画面を眺めているが、電話に出ながら去るみのり。

縁側で、元子の煙草の煙が立ち昇っている。 暗転。

【三場】夜

月明かり。縁側で電話をしているみのり。

みのり だからどういうつもりかって聞いてんの。何で荷物送っちゃいけないのよ……しばらくっていつまで？ いつまで靴一つでさ……そっちで何でも買ってくれんならいいけど……じゃないよって何だよつ。いちいち取りに帰らなきゃいけないワケ？ 東京まで……持ってよ一週間分ぐらい……それでいいじゃんって、ねえ、ちゃんとする気あんの？ ……ちゃんとハちゃんだよ。そういう事でしょ……忘れてないよね？ 約束。あと半年だよ

玄関の明かりが点いたのか縁側が少し明るくなる。それに気づき、小声で話しながら去るみのり。

みのりの声 忘れてないよね？……だからあ
たまきの声 どこに行っちゃったのかしらねえ

縁側を、玄関の方からやって来るたまきと田邊。

田邊 うん。とにかく情報が入ったら、警察から連絡いくようになってるから
たまき そう……あれ？

たまき、縁側に落ちているポーチを拾う。

田邊 どした？
たまき ……うん。忘れ物かな。…ホントに早くみつかればいいけど
田邊 そうだな

居間に落ち着く二人。

田邊 体調は？
たまき 大丈夫。あ、お茶飲む？
田邊 いや、いいよ

たまき そう？

田邊 しかし、大変な七回忌だったね

たまき うん。これでようやく一区切りって思ってたけど、こんなに色々起きるとはね

田邊 お疲れ

たまき ホントに疲れた。…みのりはともかく、いずみに先越されるとはなあ

田邊 ごめんな

たまき え？

田邊 法事、出れなくて

たまき ああ、いいよ。今まで毎年来てくれてありがとう

田邊 今回こそ、ちゃんと参加したかったんだけどな。何せドライバーが

たまき 免停？

田邊 そう。ホント困るよ。これからしばらく俺だけだからね

たまき 他に免許持ってる人いないの？

田邊 パートさんで、持ってる人もいるんだけど。ペーパーだからさ

たまき そっか。でも大変でしょ。お得意さん増えたのに

田邊 まあ効率よく回って、せいぜい頑張るよ。待っててくれる人、断れないし

たまき よっ、社長っ

田邊 しがない弁当屋のな

たまき しがないじゃないじゃん。高級仕出し弁当からオフィスの宅配まで。手広くがっちり！

田邊 まあな

たまき 良かったね。軌道に乗って。最初はどうかと思ったけど

田邊 そりゃバタバタするよ。サラリーマンがいきなり継ぐんだから

たまき だよ

田邊 でも良かったよ。お袋に泣かれてイヤイヤ継いだはずなんだけどな。弁当屋の方が

性に合ってる

たまき そう？

田邊 うん。保険なんてさ、利ザヤ抱えてヒィヒィ言ってるのに、何年先に得だとか死ん

だらいくらとか、自分でも信用できねえよ

たまき ……

田邊 弁当はさ、すぐ結果が出るじゃん。自分で作って配達して、食べてもらって、

美味かったらって言われたら、ヨッシャーってなるし

たまき (笑) 輝いてるね

田邊 そっちはどうなの？

たまき 別に。相変わらず。センター長補佐なんてただの雑用だよ。まあ年代が若い人が多いから、気楽でいいけど

田邊 あれだろ？ 本社に戻ればさ、出世街道まっしぐらだろ

たまき (笑) 戻らないんじゃない？ 不景気だし。出世なんかさせたくないと思う。女には

田邊 ……そう？

たまき でも、どっちでもいい。お母さんは？ 調子どう？

田邊 まあ腰はね、もう治らないよ。あの年で手術するってのも大変だし

たまき そっか

田邊 従業員も頑張ってくれてるから、引退して休んでもらおうと思ってさ

たまき うん

沈黙。

たまき それで？

田邊 え？

たまき 話って？

田邊 ああ。疲れてるだろ。またにするよ

たまき 疲れてないよ

田邊 疲れたって言ったじゃん

たまき もう治った

田邊 何だよそれ

たまき 何？

田邊 ……こないだ、男らしくないって言われた。お袋に。自分のことも、たまきさんのことも、見て見ぬふりして逃げてるって

たまき 何それ

田邊 酷いだろ

たまき (笑) うん

田邊 でも、そうかもしれないなあとも思った。で、色々考えた

たまき うん

田邊 一度、距離を置かないか？俺たち
たまき ……

田邊 八年も付き合って言うセリフじゃないって思うけど。じゃあどうするんだって考えた時、答えが出て来ない。もういい加減、ハッキリさせないとダメな気がする。このままだと、お互い前に進めないと思うんだ

たまき 距離を置くのが、前に進むってこと？

田邊 分からないけど。でも婚約した時と今は違うよ。あの時はお互いの親も生きてて、元気だった。俺もサラリーマンだったし、二人とも順調だった。ま、だから婚約したんだけどさ。あのまま結婚してたら上手く行ったかもしれない。でも、そうも行かなかった。タイミングが悪かったんだよ

たまき ……タイミングか

田邊 ごめん。無責任な言い方した。……子供のことは俺のせいだよ。俺が裏切ったりしなければ良かった。そう思う。思ってる。…思ってるはずなんだけど、どっかで『そりゃねえよな』と思ってる自分も居る。正直居る。…すまん。俺なんかよりたまきの方が辛かったのにな。でも、このまま結婚しても、残っちゃうと思うんだ。俺ん中に。……やっぱりこれ以上は無理だよ。ちっちゃい男で申し訳ない

たまき ……縛ってきた？私。圭佑のこと、苦しめてきた？

田邊 いや、俺がちっちゃいだけだ。すまん

間

たまき うん、分かった。自由になろう。前に進もう。私たち

田邊、うなづく。笑い合う二人。

たまき 好きな人、できた？

田邊 ……うん。いやもちろん、付き合ってるとか、そういうんじゃないよ。勝手にいいなあと思ってるだけ

たまき ふーん。純愛なんだね

田邊 純愛って、四十過ぎて

たまき いいじゃない。恋愛には年齢関係ないでしょ

田邊 恋愛って、そんなロマンチックなあれじゃねえし
たまき どんな人？

田邊 …パート。ウチの。バツイチ。三つ上で子持ち

たまき え、意外。圭佑だったらピチピチギヤルで行けると思ったけど

田邊 (笑) ピチピチギヤルって、死語だなあ

たまき (笑) 何歳？

田邊 だから三つ上。四十四

たまき 違うよ、お子さん

田邊 ああ、六つ

たまき じゃあ同い年だ

田邊 え？

たまき あたし達の子供。生まれてたら六歳

田邊 ………

たまき ごめん。変な意味じゃないよ

田邊 何かさ、亭主が酒乱で？ すんげえ我慢してやっと別れたらしいんだけど

たまき ハードだね

田邊 うん。でもすっげえ明るいんだ。よく喋るしゲラゲラ笑ってさ。お袋が働けない分、

土日も出てくれたりするんだけど。ガキ連れて来てさ、お袋に面倒見させんだよ。お袋がや

った小遣いも取り上げてるし。ちゃっかりしてるよ。まあ良く働いてくれるからいいけど

たまき いい人なんだね

田邊 おばちゃんっぽいけどね。別に美人でもねえし。…でもまあ何か、ホツとする

たまき …へえ

田邊 ………すまん……………たまきのこと、嫌いになったワケじゃないんだ

たまき …やめてよ。また言われるよ。男らしくないって

田邊 何で？

たまき そういうのは、優しさじゃないから

田邊 そっか

たまき そうだよバカ

田邊 おいっ

静かに笑い合う二人。

たまき 明日も早いんでしょ？

田邊 うん

たまき 頑張つて。社長！

田邊 たまきもな

たまき うん。何頑張れば良かった感じだけど。頑張る。気をつけて

田邊 うん。じゃあ

縁側から帰ろうとする田邊。居間に座ったままのたまき。

たまき 圭佑っ

田邊 (立ち止まり) ……ん？

たまき 今までありがとう

田邊 俺も。…体、気いつけるよ

たまき、笑つてうなづく。田邊、去る。たまき、居間に一人。

ややあつて、おもむろに、さつき拾ったポーチを開けて中身を出していく。

どこかなげやりな空気。中から出て来たのは代替えのスマホ。煙草。家の鍵。

たまき こんなのを忘れて、どうするつもりなんだろ

最後に薬の束が出てくる。しばし見ているが、出した物を戻して行くたまき。

庭の暗がり立っている人影。たまき、それに気づき

たまき ヒヤッ……ぎっちゃん？

たまき、庭に降りて義一朗に駆け寄る。

たまき ぎっちゃん！良かった……どこ行ってたの？

義一朗 ……

たまき いいや。真澄さんに…

たまき、電話をしに戻ろうとするが、義一朗に腕をつかまれる。

たまき イタツ。ぎっちゃん

義一朗、たまきを引き寄せると、静かにキスをする。

義一朗 ツルちゃん

たまき ……え？

義一朗 また、ヨシエちゃんに反抗されたか？ 和哉くんに冷たくされたか？

たまき ……

義一朗 心配しなくてもいい。俺がいる。一平さんが居なくても、俺がずっと一緒に居る。

大丈夫。我慢しないでいい。泣いていい

たまきを優しく抱きしめる義一朗。その腕の中で堰を切ったように泣いたたまき。

暗転。

【四場】翌日 昼

ヒトデ柄のペアルックを着た中川といずみ。中川との写真を自撮りするいずみ。

いずみ 撮るよ。ハイ、チーズ！

シャッター音。撮った写真を確認するいずみ。

いずみ ヨッスイ、目えつぶってる

中川 え？

いずみ もう一回

中川 いいよ別に

いずみ ダメ。後でブログに載せるんだから。もっかい。ハイ、チーズ！

ちゃんとポーズを撮る中川。画像を確認するいずみ。

いずみ オッケー

中川 いいけどさ、これ（ペアルック）は調子に乗りすぎなんじゃない？

いずみ そう？

中川 だって、急にハシヤイを感じるでしょう

いずみ 大丈夫だよ

中川 ていうかコレ、持って来てたのがスゴイよ

いずみ よし。全身撮ろ

いずみ、スマホを棚の上の物に立てかけ、中川を被写体に画角を決めている。

中川 ねえ、いずみちゃん聞いている？

タイマーセットにして、中川の隣でポーズを取るいずみ。シャッターが切れる。

いずみ よーし。……（画像を確認）わっ、クビがない

中川 え、俺の？

いずみ もっかい

中川 ちょ待って！あのさ、ホントに認めてくれたかどうか分からないでしょ。今日は出かけるのやめよう。で、お姉さん帰ってくんの待とう

いずみ 大丈夫だって

中川 大丈夫じゃないよ。何でもっと早く起こしてくれないの。朝一で挨拶しようと思っ
たのに

いずみ 知らないよ。前もって言っというてよ

中川 分かるでしょう。常識として

いずみ はいはい。非常識ですいません

中川 じゃなくて

いずみ 何よ、ガーガーいびきかいて寝てたクセに

中川 疲れてたから

いずみ 朝までずーっと

中川 疲れてたから

いずみ 何回か起こそうとしたんですけど。こうやって（中川の頬をぺちぺち叩く）

中川 だから疲れてたから

いずみ 疲れた疲れた言わないでよ！

中川 疲れるでしょう。色々あったんだし

いずみ 出かける前にテンション下がんじゃない！

中川 ごめん。え、出かけるの？

いずみ 約束したんだもん。フウセンウオの産卵、始まりそうだって。見れるといいね

中川 ……ああ

いずみ （耳元で）ヨッスイ！！

中川 もう、声大きい

いずみ 大丈夫だよ。急に弱気になんないで！昨日はあんなにカッコよかったのに

中川 だって…カッコ良かった？

いずみ うん。ちょっとね

照れる中川。中川をツンツンして、じゃれるいずみ。何かくすぐったりして。

中川 （笑）バカ、やめろよ

いずみ ヨッスイ！

中川 だから大声出さないでっ

いずみ 結婚するんだよね？ 私たち

中川 …うん

いずみ 声が小さい！

中川 うん

いずみ 自信持って！

中川 うん

いずみ ひるまないで！

中川 うん

いずみ 腹くくって！

中川 うん！

いずみ キスして！

中川 うん！ え？

いずみ、中川に抱きつく。そして熱いキス。

みのり おはよー

離れる二人。目を腫らし、疲労感が漂うみのり。手にはスマホ。

中川 お姉さん

みのり 何やってんの朝っぱらから

いずみ 朝じゃない。もう十二時回ってる

みのり ダッサツ。何そのペアリック

いずみ なっ

みのり そんな格好でどこ行くの

いずみ 江ノ島

みのり 江ノ島、今更？

いずみ 今だから行くんじゃない。江島神社、恋愛成就のパワースポットだよ

みのり ふくん

中川 まあ、メインは水族館なんですけど。教え子が働いてまして
いずみ え、でも神社も行くよね？

中川 恋は成就したんだから、もういいんじゃない？

いずみ 夫婦円満のご利益もあるんだよん

中川 そっかゝ

白けているみのりを他所に、いちゃつく中川といずみ。

みのり どうだかね。あたし高校ん時彼氏と行って、速攻別れたけどな

いずみ それはミー姉だからだよ

みのり あん？

いずみ てか、なんか目え腫れてない？

みのり うっさいな。んだよ、昨日味方してやったのに…

中川 昨日は本当にありがとうございました！

みのり …や、そんな

中川 あの、たまきさんって今日仕事ですか？

みのり …さあ？ いないんですか？

中川 ええ。早く起きてご挨拶しようと思ったんですけど…昨日は何だか…本当に許して

もらえたのかどうか

みのり まあ…大丈夫じゃないすか？

中川 でも

いずみ 大丈夫だよ。大学進学の時も、院に行きたいって言った時もあんな感じだったし

みのり いいよねえあんたは。最終的に何でも許してもらって

いずみ 実績あるからね。私、家のこと超手伝ってたもん。ミー姉、何もしないじゃん

みのり …この世渡り上手がっ

中川 それはそうとミー姉さん

みのり 呼び方変わった

中川 たまきさんと区別した方がいいかなあと

みのり 何ですか？

中川 行くんですか？ 神戸

みのり ………

いずみ やめなよ。絶対騙されてるって

みのり …騙されてないよ

いずみ また

みのり 騙されてない……今んとこ

いずみ は？

みのり ちよ、聞いてよ！ 昨日さ、家具とか服とか、送りたいって電話したの

中川・いずみ うん

みのり 部屋も狭いだろーし。言っとかないと思っ

中川・いずみ うんうん

みのり したら困るとか言うの。なるべくコンパクトにするって、大きい家具は売っちゃう
つつてんのに、それでも困るって言うわけ。バッグ一つで来いとか言うわけ

中川・いずみ ええ

みのり そんなのこっちが困るじゃん。いちいち新幹線で荷物取りに帰んのかって話じゃん
中川・いずみ うん

みのり 大家にも引越すって言っちゃったし。どういうつもりだよって、ちゃんとする気
あんのかって、結婚する気あんのかって聞いたわけ

中川・いずみ うんうん！

みのり …したらさ、メチャメチャびっくりされた

いずみ え、何で？

みのり 遊びに来いの？ 軽いノリで言ったんだけどって

中川 三泊四日のな感じな？

みのり、うなづく。

いずみ 結婚するから一緒に行こうって言われたんでしょ？

みのり …結婚、とは言われなかったけど、神戸について来て欲しいって言われた。普通さ、

ついてくっつてのは、一緒に暮らすってことだよな？

いずみ まあ、普通はね

みのり イコール結婚ってことっすよね？

中川 まあ普通…ですかね

みのり おかしいじゃんつつつたの。したらちょっと悩んで、『平日は居ていい。土日はどっ

か泊まってるって言うの

いずみ は？

みのり 土日は奥さん来るからって

いずみ う〜わ最悪〜

みのり バカにしやがって!!

スマホを床に投げつけるみのり。

中川 ……まあ…行く前に分かって良かったんじゃないですか

いずみ そうだよ。てか、何年付き合ったの？

みのり 五年

いずみ 五年も良く付き合ったよそんな人と。もう充分

中川 そうそう。別れて正解ですよ

みのり ……

いずみ え、別れるよね？

みのり ……どうしよう

いずみ え、神戸行っちゃおっかなあとか思ってるの？ え、え、月金で奥さんやっちゃおっ

かなあとか思ってるの？

みのり だって五年だよ。五年付き合ってもう三十五だよあたし。もったいなくない？

いずみ ダメだ。もう行こ

中川 そうだね

いずみ あ、写真撮ってない

中川 あそつか。ミー姉さん！

みのり は？

中川 すいません。写真、一枚いいですか？

みのり え、あたしの？

いずみ そんな訳ないよね。ヨッスイとあたしの写真だよ。全身で一枚、お願いしま〜す

みのり 江ノ島で撮れよ

いずみ ブログに載せるから。出発から撮りたいの。(自分のスマホを渡す)

みのり いいよねえ幸せで。こんなダサイペアルック、何で撮らなきゃいけないのよ

中川 すいません

いずみ この辺でいいや

庭をバックにして縁側に立つ二人。

みのり 逆光だよ。こっちにしたら？

いずみ 庭を入れて撮りたいの。調整できるよ

みのり 分かんないもん。じゃあ降りちやってよ

いずみ 下に？

みのり そう

いずみ ちょっと待って（玄関の方へ去る）

中川 ミー姉さん

みのり 何ですか？

中川 私が言うことじゃないかもしれませんが、神戸には行かない方がいいですよ。
生物学者の勤です

みのり 男の勤とかにしてくださいよ

中川 （笑）なるほど

いずみが中川と自分の靴を持って戻って来る。

いずみ ヨッスイこれ

中川 ありがとう

中川といずみ、庭へ降りてポーズ。縁側からスマホを構えるみのり。

みのり もうちよい下がって。……あ、そこでいい。いくよ。ハイ、チーズ！

ちょうど元子が来てフレームイン。

みのり おいおいおい

元子 あ、いずみちゃん！

いずみ もっちゃん

中川 わっ、お母さんっ

いずみ どこに泊まったの？

元子 ビジネスホテル
いずみ ここに泊まれば良かったのに
元子 そういう訳にもねえ
いずみ 心配したんだよ。電話にも出ないし
元子 携帯失くしちゃって
いずみ え？ あれ代替でしょ？
元子 うん。ここに忘れたんじゃないかと思って
中川 探しましょうか？
元子 あ、大丈夫です
みのり ねえ、写真どうすんの？
いずみ 見せて。(スマホを受け取り) アハハハッ、うける。ヨッスイ超びっくりしてる
中川 え、どれどれ？
いずみ これでいいや
中川 ちょっと
みのり ぎっちゃん…

義一朗がプランターを抱えて庭に入って来ていた。プランターは土だけの様子。

いずみ ミー姉、電話っ
元子 大丈夫。お隣から来たから。昨日の夜、帰ってきたそうよ
いずみ そうだったんだ
元子 たまきさんは？
いずみ 出かけてるっぽい
元子 どうしよう
いずみ 何？
元子 義一朗さんが、これ、庭に置かせて欲しいって言うんだけど
いずみ うちに？
中川 何ですかそれ
義一朗 へちま。種を植えといた
いずみ へちま？
義一朗 あの辺がいいかなあ

置き場所を探し始める義一朗。自分のスマホを拾うみのり。

元子 たまきさん居ないみたいだし、勝手に置いたらまずいんじゃないかな

義一朗 勝手じゃない。ツルちゃんに話した

元子 そう言われてもね……

みのり (縁側から去りつつ) いいんじゃない。後で言っときます

元子 そう？

中川 たまきさん、携帯持ってないの？

いずみ 持ってるよ。え、電話すんの？

義一朗 和哉くん！

中川 え？あ、俺か

義一朗 持って

義一朗、プランターを中川に持たせる。

中川 はい

義一朗 ヨシエちゃん

広告の裏紙に書いたメモを、元子に渡す義一朗。

元子 え？

灰皿と煙草を持って居間に戻ってくるみのり。

義一朗 育て方は書いといたから。お母さんを手伝って。世話して。な

元子 ……はい

また置き場を探し始める義一朗。元子、メモを読もうとして首をかしげる。

元子 これ……裏の色が映って、読みにくい…

中川 机に置いてみたらどうですか？

元子 そうね

居間に入りメモを座卓に置く元子。庭で義一朗の指示を待つ中川といずみ。

みのり (煙草を吸いつつ) 読めます？

元子 ダメ。鉛筆の字が薄くて。ていうかあたしに渡されてもね

みのり ぎっちゃん、元子さんのこと叔母さんだと思ってんだ

元子 そうみたい

二人、笑う。みのり、元子に煙草を勧める。一本もらう元子。

元子 ありがとう。……みのりさん、行くの？ 神戸

みのり、首をかしげるだけで答えない。元子、煙草を吸いながら

元子 あたしが出る幕じゃないけど、こっちに居た方がいいんじゃないかな？ お父さんが生きてたら反対する。そんな気がする

みのり ……でも、やっぱり分かりませんよ。死んだ人がどう思ってるかなんて

真澄が庭に飛び込んでくる。

真澄 居た！ダメって言ったじゃない！ホントに申し訳ありません

中川からプランターを奪い取って出て行くこととする真澄。

いずみ え、ちょっと

義一朗 悦子！

真澄 悦子じゃないって！ダメでしょ勝手に

義一朗 勝手じゃない。ツルちゃんに話した。ヨシエちゃんにも育て方教えた。なあ

元子 あ、はい

真澄 いいから。行く準備しないと

義一朗 約束したんだ！

真澄 え？

義一朗 夏が終わる頃には帰る。それまでここで育ててもらうんだ

真澄 帰るって…

たまき 大丈夫ですよ。置いてってください。ウチで育てますから

縁側に、たまきが立っている。

真澄 ……でも

義一朗 ツルちゃん

元子 え？

たまき、庭へ降りて真澄からプランターを受け取る。居間に戻るいずみ。

たまき どの辺？

義一朗 うん。あっちがいいと思う

中川 ああ、私が

中川がプランターを受け取り、義一朗の示す場所へ置く。

いずみ (みのりに)ぎっちゃん、たま姉のことお婆ちゃんだと思ってる

義一朗 育て方はヨシエちゃんに教えといた

元子 あ…

たまき ありがとう

義一朗 花が咲いて、実がこのぐらいになったら食べるといい。あんまり大きくなっちゃダメだ。煮てもいいし炒めてもいい。漬物にもなる

みのり へちまってタワシじゃないの？

義一朗 タワシにもなるぞ。このぐらい大きく育ったら水に漬けて腐らせる。そして皮や種を取る。花は目を楽しませ、若い実は舌を楽しませ、骨だけになったら体を洗ってくれる。

葉は茂って日陰を作り、枯れればこやしになって次の代を育てる

中川 なるほど。生きている間も死んでいる間も役目がある。みんなそうですよねえ。…

例えば珊瑚はですね、あの固いところは骨なんですよ。珊瑚は実は虫なんです。小さい虫が手をつないでドンドン増える。でも、真ん中の方は全部死んでます

義一朗 ……ふうん

中川 あれ？

義一朗 ツルちゃん、夏が終わる頃には帰るから。そしたら今年もヘチマ水を取ってやろう
たまき ありがとう。いってらっしゃい

義一朗 うん。いってきます

義一朗、笑顔で答えると、庭の方から去っていく。

真澄 ご迷惑おかけして申し訳ありません。落ち着いたら処分しに来ますんで

たまき 大丈夫ですよ。ちゃんと育てます

真澄 ……そうですか？ 正直助かります。売りに出す家にこんな植えられても困るし。
またいつこちらに伺えるか分かりませんし。すみません

みのり 無くなっちゃうんですね。ぎっちゃんの家

真澄 まあ、可愛そうですね。ホントに結婚して子供でも作っといってくれれば

元子 でも楽しそうでしたよ、義一朗さん。ここで、こちらのお婆様と世間話したりして

真澄 そうですか

元子 ええ

真澄 色々お世話になりました

真澄、一礼し、義一朗を追って去る。居間へ入ってくるたまき。

元子 たまきさん

たまき ここ、禁煙です

元子 あ、すみません

慌てて火を消す元子。みのりは煙草と灰皿を持って縁側から去る。

いずみ ちょっと、出かけてくる

たまき あそう

中川 あの、お姉さん

たまき はい

中川 昨日は色々、失礼しました。もし、お許し頂けるなら、今度、母と息子も一緒に、お食事でもできたらなあとお時間あればですけど

たまき そうですね。お母様にもご挨拶しないと

中川 ホントですか？

たまき ええ。土日は空いています。ご都合、お知らせ下さい

中川 はい！じゃあご連絡します！

いずみ もっちゃんも良かったら

元子 え？う、うん

いずみ 式には来てよ。多分9月ぐらい

たまき 9月なんてすぐじゃない

いずみ 大丈夫。そんな大げさなのやんないから。身内だけで式挙げて、あとはお店で二次会っぽく。ね

中川 うん

いずみ 夏休みに集中して準備するから

たまき 勉強もちゃんとやってよ

中川 私が責任もって監督しますから

元子 (笑) 何を監督するんだか

いずみ ちょっとお

中川 やめて下さいよ。お母さん

いずみ 行こ

中川 うん。行って来ます！

元子 行ってらっしゃい

二人、庭から去る。

元子 たまきさん

たまき はい

元子 いずみちゃんの結婚、許してくれてありがとうございます。…本当はこんなこと言う資格ないけど。…昨日は本当に失礼しました。勝手なことばかり言って。今まで母親の

役目、何一つして来なかったのに。今更ですけど、あなたや和哉さんに全部背負わせちゃって、申し訳なかったって本当に思ってます

たまき じゃあ、お渡しします

元子 え？

たまき、棚の扉から忘れ物のポーチを出して渡す。

元子 (笑) やだ、やっぱり。ウチの鍵とか入ってて、もうどうしようかと

たまき まだいっぱいありますから。母親の役目。結婚式に出て。出産に付き添って。赤ん坊の世話を手伝ったり、七五三に連れてったり。お小遣いやお年玉あげたり。向こうのお母さんとも上手くやって。私そこまでできませんから、バトンタッチします。結婚、後押しした責任とって下さい

元子 ……はい

たまき 薬飲みながら煙草吸うって。それ意味ないですよ。真面目にやって下さい

元子 ……そうよね。分かっているんだけど、つい、手が出ちゃうのよね。来月手術するの。色々考えると落ち着かなくて……でも

元子、ポーチから煙草を出してゴミ箱に投げ捨てる。みのりが縁側に。

みのり あれ？ (ゴミ箱から元子の煙草を拾い) まだ入ってんじゃない。もったいない

元子 もったいなくない

みのり え、いらなんだったらちようだい

元子 あげません

みのり さっきあげたのに…

元子 たまきさん。私、真面目にやります。真面目にやりますんで、一つ、ヨロシクお願いします！

たまき はい

みのり どしたの？

元子 みのりさんも、真面目にやんのよ！…それじゃあ

縁側から庭へ降り、一礼して去る元子。

みのり なんなんだよ

たまき、棚から便箋とペンを取ってきて何やら書き始める。

みのり ……何書いてんの？

たまき 叔母さんにお礼。お香典とお供え送ってくれたから

みのり ふーん

たまき あと、いずみの結婚の報告

みのり ……足、まだ悪いの？

たまき もう治らないんじゃない？ あんたも一回ぐらい顔見せに行きなさい

みのり ヤだよ。嫌われてるし

たまき そんなことないわよ

間。

みのり ねえ

たまき ん？

みのり 何であんなこと言うの？

たまき は？

みのり ぎっちゃん、ホントは旅行じゃないじゃん。帰るところもなくなるし

たまき じゃあ何て言えばよかったの？

みのり ……分かんないけど。何かヤだよあの人。みんなに愚痴って泣いて被害者アピールし

てき、結局ぎっちゃん売って、そのお金で追い出すんだよ。可愛そうだよぎっちゃん

たまき 可愛そうかどうかなんて分からないじゃない

みのり え？

たまき 姪っ子さんのところで暮らした方が幸せか、南フランスみたいな所で暮らした方が幸

せか、分からないじゃない

みのり そうだけど、本当のこと知らないまんまで

たまき 本当のことが分かったら、お隣で暮らすって言うわ。一人で

みのり ……

たまき あの人が言った南フランスみたいなのこ、お隣売ったお金だけで入れると思う？

みのり だから売るんでしょ？

たまき 入所金だけ払ってもダメなんだよ。毎月毎月、家賃とか食費とか色々かかるんだよ
みのり そうなの？

たまき そう。そのお金はあの人が払っていくの。ずーっと。他に安い所があっても、そこには行かせないの

沈黙。たまき、手紙を書く手を止めて

たまき あんた、いいの？

みのり え？

たまき 何時の新幹線？

みのり ああ……

たまき、鞆から通帳と印鑑を取り出し、机の上に置く。それをみのりの方へ押しやり

たまき 持ってって

みのり ……？

たまき あんたのだから。父さんが積み立ててくれたの

みのり、通帳を手に取り、中を見る。

たまき みのりが本当に結婚することになったら渡してくれって。それっぽいことは何回もあるだろうけど、すぐ渡すなって。ちゃんと結婚できるか見極めてから渡せって

みのり 嚴重だな

たまき でも、もう面倒くさい。あんたもいずみも、どうせ言うことかかないし。まあもう大人だしね。自己責任でやってくれればいいわ。これ渡すから、何が何でも結婚しなさいよ
みのり ……お姉ちゃん。父さんが死んだ日、あたし本当に遊んでたんじゃないんだよ。

田邊さんとタクシーで来たのは…あたしが田邊さんと会ってたんじゃないよ。あの時……

たまき 別に疑ってないわよ

みのり うそ

たまき ホント。会ったもん、相手の人と
みのり えっ、田邊さんに聞いたの？

たまき まさか。興信所に調べてもらったの

みのり こわっ

たまき 生ぬるくないのよ。あんたと違って

みのり 何話したの？

たまき 話してない。外から見ただけ。庭越しにちよっと。それで、帰った

みのり 何で？

たまき ん〜……危ないなあと思って

みのり …へ？

たまき その人、すごい疲れた顔してたの。疲れた顔で子供遊ばせて、何かいやあなおー
ラが出てた。もし声かけたら、暗いブラックホールみたいなのにズズズズツツ引き込ま
れそうな気がして。だから、走って帰った

みのり 走って

たまき うん。父さん看取って、普通の生活に戻ったところだったしね。今考えてもそれで
良かったって思う

みのり ……へえ〜

たまき 早くしまいなさいよ

ややあって、みのり、通帳をたまきの方へ戻す。

たまき え？

みのり いい。あたし行かないから。ていうかもう別れたの

たまき …あ、そう

みのり だから預かってて

たまき 何で？自分で持ってたよ

みのり まだ結婚しないから

たまき 見極められないわよ。あんたが結婚できるかどうかなんて

みのり 遺言でしょ？

たまき 遺言状とかないもん

みのり ひどい

たまき どっちが。私だって、自分のことで精一杯なの

みのり、たまきの鞆に通帳と印鑑をねじ込もうとする。

たまき やめてよもう！

鞆に入れよう入れさせまいという短い攻防。結局、通帳と印鑑はたまきの鞆へ。

みのり イエーイ

たまき ホント面倒くさいわね、あんたって

みのり あたしさ、こっち戻ってこよっかな

たまき やめてよ。あたしに寄生する気？

みのり ちゃんと働くよ

たまき 働くってたって。いい年して日雇いもないでしょ

みのり 日雇いって言うな。ホテルの配膳なんてね、上は六十代とか七十代もいるんだから。

バリバリ働いてるよ。明かなヅラかぶったりして

たまき そこまで続ける自信あんの？

みのり ないよ

たまき、再び手紙を書き始める。

みのり でも、マジで戻って来よっかな。その方がさ、心強いでしょ

たまき 一人の方が気楽でいい

みのり そんなこと言っつて、風呂場で倒れたりしたらどうすんの。マジ最悪だよ。裸で発見

されてさ

たまき 何でお風呂場限定なのよ

みのり 一緒の方が安心じゃん

たまき 大丈夫よ、ちゃんと考えてるから。このまま一人で年を取っても、あんたやいずみ

に迷惑はかけない。自分で決着つけるわ

みのり、いきなり座卓を片側から持ち上げる。

たまき ちよっ何すんのよ！…手紙が…もうバカ！

みのり そんなんだから何もできないんじゃない！

たまき はあ？

みのり 父さんの時だって、手伝おうとしたら『ああ、いいいい。私がやる。やめてえ、触らないでえー』って拒絶して

たまき 危なっかしいからよ。あんた、水差しと間違えて尿瓶で水飲ませようとしたんだよ

みのり 形が似てたから

たまき 似てないわよ！

みのり 教えてくれれば出来るよ

たまき 普通分かるでしょ。もう、教える手間考えたら自分でやった方が早いっ

みのり そういうところがダメなんだよ。あのね、出世する人ってのは、部下に仕事振って、やりがい持って働かせる人なんだよ。お姉ちゃんなんか会社でもそうでしょ。『何か手伝いましょうか？』って声かけられたら『ああ、いいいい。あたしがやるから手え出さないで』って拒絶して、一人で山のように仕事抱えてき。そんなんだから出世できないんだよ！

たまき、書き損じた便箋を丸めてみのりに強く投げつける。

そして、新しい便箋にまた手紙を書き始める。

たまき ……バイトのあんたに何が分かるのよ

みのり ……ごめん

気まずい空気が流れる。遠くからカモメの鳴き声が聴こえてくる。

みのり ねえ、父さんと元子さんが結婚する前さ、二階が子供部屋だったじゃん

たまき ……

みのり しょっちゅうケンカしたよね

たまき ……

みのり 一回さ、特大のケンカして、一週間以上口きかなかったことあんの。覚えてる？

たまき ……覚えてない

みのり 何だ。あん時どうやって仲直りしたと思う？

たまき 知らない

みのり 父さんが江ノ島に連れてってくれて、いつの間にか仲直りしてたんだよ
たまき ……そうだった

みのり そう。展望台登って、三百六十度の海見てさ。神社にお参りして、三人でシラス丼食
べて。んで帰った。帰り、江ノ電の中で喋りまくって父さんに叱られて……楽しかったな
たまき (ため息) もういい。後にしよ

手紙を書くのをやめて寝転ぶたまき。

みのり ねえ、来週さ、江ノ島行かない？

たまき 江ノ島？ 今更？

みのり 今だから行くんだよ

たまき はあ？

みのり あたしたちにとって、一番必要なことをしに

たまき 何それ

みのり 江島神社で良縁祈願

二人、笑う。

たまき そうね。必要かもね

縁側へ出て、江ノ島の方へ向って拍手を打つみのり。たまきも縁側の方へ。

遠くから波の音が聴こえてくる。そんな気がする。溶暗。

蝉の声と共に再び光が差し込んで来る。

時は流れ、長谷川家の庭ではへちまの蔓が実をつけていた。

音楽『Que Sera, Sera』。晩夏の日差し、まぶしく。

— 終 —